

大垣市金生山化石館

化石館だより



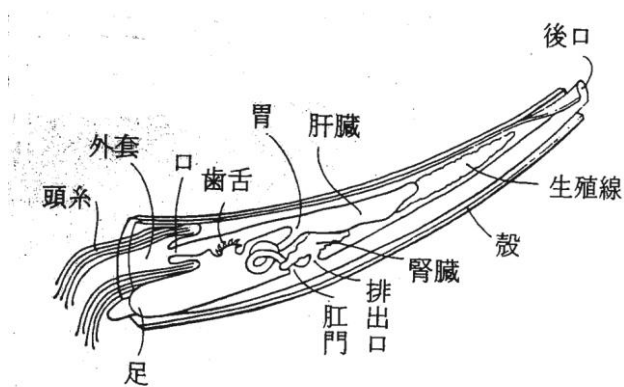
コラム

角の形をした化石 デンタリウム

デンタリウムは軟体動物の掘足綱に属する生物の総称です。掘足類、ツノガイ類ともいいますが、その名前のように砂を掘る足が発達しており、象牙や水牛の角に似た殻をもっています。足は発達していますが目や触角を欠いており鰓もありません。頭部には「頭糸」という触手の様な器官があり、これで餌を捉えて食べています。明確ではありませんが主に有孔虫を食べているようです。掘足類は全て海産種で、浅海から深海まで広く分布しています。掘足類はゾウゲツノガイ目とクチキレツノガイ目の2目に分類されており、現生種として517種が知られています。また絶滅種は816種が知られています。



現生のツノガイ



最も古い化石記録は米国ケンタッキー州で発見されたリチドデンタリウム (*Rhytidodentalium*) でオルドビス紀のもので、しかしゾウゲツノガイ目の確実な化石記録は石炭紀からだとも言われています。掘足類の化石は、新生代の地層からは普通に見つかりますが、古生代や中生代の地層からは僅かしか知られていません。掘足類の化石は、石炭紀前期までに1~2属、石炭紀とペルム紀で3~4属、三畳紀からジュラ紀で5~6属、白亜紀になると9属、そして新生代に入ると42属にも増加します。掘足類は、新生代に入ってから種類数も個体数も急増したようです。

金生山の赤坂石灰岩からは、早坂一郎が下記のプロデンタリウム属2種と、プラギオグリプタ属2種を記載しています。

- Prodentarium akasakensis* (Hayasaka)
Prodentarium neornatum (Hayasaka)
Plagioglypta sp. cf. *P. priscum* (Muenster)
Plagioglypta herculeum De Konink



プロデンタリウム アカサケンシスの頂部

この報告は日本の古生代における掘足類化石に関する最初の記録となりました。プロデントリウム属は大型種で、殻には明瞭な縦肋が見られます。金生山で発見されアカサケンシスと名付けられた種は、20cmを超える大型種で明瞭な縦肋がみられます。先端は4mm程度まで細くなり切れ込みが見られます。一方プラギオグリプタ属には明瞭な縦肋がみられず切れ込みもありません。縦肋や成長線など殻表面の彫刻や、殻頂部の切れ込みの有無と形状はデントリウムの分類において重要なポイントとされています。金生山からは、早坂が記載した種とは異なる形状をもつ化石が知られていますが明確ではありません。掘足類化石は変形や破損を受けたものが多く、完全な形の標本を入手することはとても難しいのです。また、風化の進んだ石灰泥の層から形状の異なる先端部分の化石がいくつか見つっていますが、どの種のものか明確になっていません。

(文責：高木洋一)



「文化（化石）講演会」の開催

金生山化石研究会主催の講演会を2月11日に開催します。例年化石をテーマとしていますが、今年はジオハザードをとりあげました。予約も会費も不要です。時間の許す方は是非ご参加ください。

日時 2月11日（月・祝）
場所 大垣市サイトピアセンター 学習館6階 「かがやき活動室6-1」
演題 西濃地域で想定されるジオハザード ～地震災害・洪水災害・土砂災害～
講師 小井土 由光 先生 岐阜大学名誉教授

「わくわく体験」は通年実施しています

フズリナ化石の入った石灰岩をピカピカに磨いてつくる化石標本やアクセサリ。三葉虫やアンモナイトのレプリカ作成。サメの歯やアンモナイトの化石を削り出す化石クリーニングなど、いくつものメニューを準備しています。40分程度かかりますが、来館の記念にぜひ体験してみてください。



問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)
Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp